

JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

転籍拒否のバス運転士 駅清掃や草刈り

相鉄バス 外注化から数年後で転籍・退職を迫る

清掃や草刈りなど「追い出し部屋の」配置転換…相鉄バス元運転士が地位確認求め提訴

労働協約違反や不当な配置転換があったとして、元バス運転士12人が、相模鉄道グループを束ねる「相鉄ホールディングス（HD）」を相手に、地位の確認やそれぞれ110万円の損害賠償などを求め、訴訟を起こしている。8月18日、横浜地裁で第1回口頭弁論が開かれる。

訴状などによると、原告はいずれも50代のベテラン。入社以来、30年近く相模鉄道のバス部門で運転手をしてきたが、今年度に入ってから、駅の清掃や草刈り、グループ企業のスーパーなどへの配置転換を命じられた。

原告らが加盟する相模鉄道労働組合は「追い出し部屋の対処だ」と批判。原告以外にも、10人ほどが配置転換になっているといい、順次裁判で争う予定だ。

●なぜ配置転換？

相鉄HDは、2010年にバス部門を分社化した。このとき、組合との間で、原告らを定年まで出向扱いとし、賃金などの待遇を変えないという労働協約を締結している。

しかし、2014年ごろから、相鉄HDは費用削減のため、出向している約200人のバス関係者に対し、バス会社への転籍か早期退職を要求。このうち、約80人が労働協約違反だとして提案を拒否した。組合によると、今回提訴した12人をはじめ、提案を拒否した組合員たちが、今年4月から少しずつ出向を解除され、別のグループ企業に再出向させられているという。

協約を無視し転籍迫る相鉄

2011年にバス部門を完全分社化した相鉄HD（ホールディングス）で、転籍や早期退職を拒否したバス運転士を、駅の清掃や草刈り、グループ企業のスーパーなどへ配置転換しているとして、元バス運転士12人が訴訟を行っています。

相鉄HDは09年に鉄道事業を分社化し、11年にはバス事業を完全子会社化して自らは事業を行わない純粹持株会社になりました。その目的は、分社化と外注化、労働者の転籍によって劇

的な賃下げ・コスト削減を行うことでした。相鉄労働組合は当初、外注化と転籍に反対してストで闘いました。このため相鉄HDと相鉄労組は、分社化以前の社員については定年まで出向扱いとし賃金を補填する労働協約を結びました。こうして従来通りの賃金が補填される（分社以前の）社員と、分社化以後に入社した低賃金社員の二重化が起きたのです。

しかし結局、わずか数年後の2014年、相鉄HDは費用削減のため約200人のバス運転士らに対してバス会社への転籍（賃下げ）か早期退職を要求しました。これを拒否した労働者数十人が本来の運転士などの仕事を外されたのです。

外注化は転籍に行き着く

JR東日本の外注化とまったく同じ構図です。外注化との妥協は転籍に行き着きます。「不利益変更はこれから入ってくる労働者だけ」という「言い訳」で導入される労働条件の切り下げは必ず全体に波及します。

相鉄は過去最高益を更新しています。バス職場の過酷な労働条件と事故の激増は多くの人びとが指摘するのとおりです。

外注化と出向、転籍に絶対反対しよう！

JR千葉鉄道サービス（CTS）の就業規則の改悪に反対しよう！